

(様式1-5)

相馬市 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和4年5月9日時点

※本様式は1-3, 1-4に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	2	事業名	相馬の食と観光魅力発信拠点整備事業	事業番号	B - 1
事業実施主体		相馬市	総交付対象事業費		22,352千円
既配分額		千円	当該年度交付対象事業費		22,352千円
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業					
①情報発信事業					
					小計 千円
i) 風評動向調査					
ii) 体験等企画実施					
iii) 情報発信コンテンツ作成					
iv) ポータルサイト構築					
②外部人材活用					
					小計 千円
i) 企画立案のための外部人材の活用					
ii) 地域の語り部の育成					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修					22,352千円
風評の払拭に関する目標					
【アウトプット】					
相馬の食と観光魅力発信拠点整備					
【アウトカム】					
道の駅そうまの年間観光入込客数：67.8万人（平成22年度比10%増）					
相馬市に対する県外在住者の好感度率 7割以上					
事業概要					
事業実施主体	相馬市				
主な企画内容	相馬の食と観光魅力発信拠点整備				
主な事業の実施場所	道の駅そうま物産館				
事業の実施期間	令和4年度				
企画内容					
【実施体制】					
①実地主体：相馬市					
②連携団体及び役割分担					
(1) 相馬市					
・ 相馬の食と観光魅力発信拠点整備の検討及び設計					
・ 改修事業者との請負契約					
・ 改修状況の進捗確認					
・ 改修後の活用					
・ 情報発信拠点として、市の魅力を積極的に発信					
(2) 改修業者					
・ 市監督員の指示のもと内装の改修を実施					

【現状・課題】

<現状>

東日本大震災以前の相馬市は、松川浦の風光明媚な風景、海水浴、潮干狩り等のビーチレジャー、新鮮な常磐もの(魚介類)のグルメ、相馬野馬追、相馬中村城等の歴史文化史跡等数多くの観光資源があり、様々なコンテンツを一つの場所で楽しむことが広く知られていて、山形県や宮城県等の近隣県のみならず、首都圏からもファミリー層を中心に多くの観光客(平成22年度:年間の入込客数約180万人)が訪れていた。

しかし、震災によって、松川浦の津波被害による海水浴や潮干狩り等のビーチレジャーのほか、福島第一原発事故での放射性物質の拡散で漁業は大きな影響を受けることとなり、復旧・復興には長期を要した。その間に、被災地、原子力災害地域に近いというイメージが定着し、観光地としてのイメージが薄れてしまった。その影響は大きく観光客入込数は、震災以前の3分の1(平成30年度:年間の入込客数約60万人)まで落ち込み、現在に至るまで回復の兆しがみられない。



<課題>

令和3年4月に相馬福島道路の開通、令和2年10月に新鮮な魚介等を販売する新たな拠点として浜の駅松川浦がオープンするなど、震災以前よりも交通アクセスが改善したり、更なる観光コンテンツができたりするなど相馬市の観光を楽しむ環境の整備が進みつつある。

こうした環境の整備を観光の復活につなげていくには、被災地や原子力災害のイメージを払拭するとともに相馬市の魅力を知ってもらうことが重要となる。

上記の課題を解決するためには、実際に相馬市を来訪してもらうことで魅力に触れ、実感を得てもらうことが最も効果的であるが、そのための来訪のきっかけづくりができていない。

現状では、他の目的地へと通過する交通が多い中で、立ち寄りきっかけをつくっていく必要がある。

【今年度事業における具体的な取組内容】

前記の課題を解決するために、A-1、A-2事業を実施する。A-1、A-2事業によりファミリーで楽しめるイベント等を開催し、震災前の子供のころに訪れた親世代の記憶を喚起し、魅力を再認識してもらうことで、ビーチレジャー等での更なる滞在につなげ、市内各所への周遊を促す。

相馬市への来訪に当たっての主な交通手段は自動車であり、また、他の目的地への立ち寄り等も考えれば、交通アクセスが容易であり、かつ、無料で駐車できるスペースがあることが必須となる。相馬市におけるこうした施設としては、道の駅そうまが最適である。

道の駅そうまには既存の物販施設が所在しているが、平成15年開業で老朽化、陳腐化が進んでおり、また、浜の駅が開業したことで、物販施設としての重要性も低下してきている。新型コロナウイルス終息後の観光需要の増大も見据えて情報発信の拡大が求められる中で、魚介等のグルメも味わえる物販施設は浜の駅、相馬市の文化等の魅力に関する情報発信は道の駅そうまという形で、施設間で役割を分担し相乗効果を発揮することができれば、観光客の呼び込みに更に大きな効果が期待できる。

しかし、既存の物販施設のままでは、イベントの会場として使用することや、常設展示物等を通じて情報を発信することは困難であることから、必要な改修を行う必要がある。既存施設の有効活用という点からも有益なものと思料している。

<道の駅そうま物産館の規模、構造等>

管理者:相馬市

開設年月日:平成15年4月28日

構造:鉄骨造平屋建 瓦葺き

建物の法定耐用年数:38年間(平成15年~令和22年)

床面積:398㎡

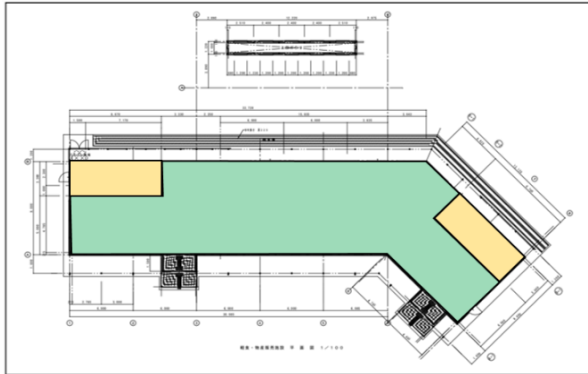
施設内容:農水産物等販売コーナー、飲食物提供コーナー、駐車場一式

<改修内容>

- ・相馬の魅力発信や風評払拭のための情報を発信する拠点とするため、イベントを中心とした情報発信スペースを設ける。
- ・イベントを中心とした情報発信を効果的に実施できるように内装、照明等を改修する。

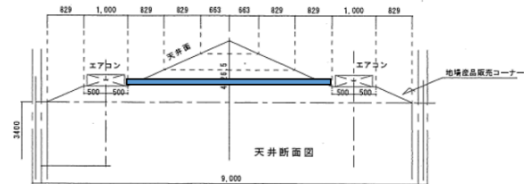
実施期間：令和4年7月～令和4年10月
実施体制：相馬市、改修業者
概算費用：20,000千円

床改修



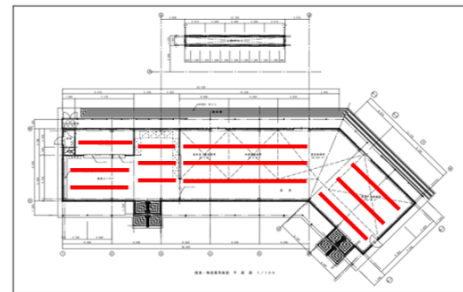
-  シート張り替え
-  塗装

天井改修



エアコン面に合わせて天井高を統一

照明器具



照明器具

<道の駅そうま物産館の利用計画>

- ・本市の魅力をPRするための情報発信拠点と位置づけ、相馬市の文化等の魅力に関する情報を継続的に広く発信する場所とする。
- ・当施設を利用したイベント等（A-1、A-2事業をはじめとしたイベント）による情報発信の強化や風評払拭のための取り組みを継続に実施していく。

【事業実施により得られる効果】

- ・道の駅そうま物産館の内装改修と、相馬市の文化等の魅力に関する情報発信のイベントを一体的に実施することにより本市の魅力度を高め、本市を訪問するきっかけの創出。
- ・改修により、本市の文化等の魅力に関する情報発信の拠点となる。
- ・相馬市を県外の方に知ってもらい、賑わいを取り戻すとともに、豊富な農水産物の安全性と魅力を次世代に伝えることが相馬市の発展につながる。

【新型コロナ感染拡大防止対策】

事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、国・福島県・相馬市が発出する通知・ガイドラインに則った形で事業を実施する。

<具体的な対策>

- ・マスク着用や手洗いなどの感染症対策の呼びかけ
- ・換気及びこまめな消毒の実施
- ・施設等においては検温の実施及び三密の回避
- ・体調管理の徹底